

【主催】群馬県、前橋地方事務局、群馬県人権擁護委員連合会、群馬県人権啓発活動ネットワーク協議会

【制作】NPO 法人たかさきコミュニティシネマ

群馬人権映画祭 オンライン上映会

Human Rights Movie Festival in Gunma 2023

ヒューマンライツ・ムービーフェスティバル in ぐんま

2023. 12. 10 [SUN] オンライン開催

申込制：無料（先着 500 名限定）

申し込み方法：専用フォームからお申し込みください。

申込期間：11月5日（日）から12月7日（木）23:00 まで。

定員に達し次第申し込み終了

映画の配信は、お申込みいただいた方へ視聴方法を前日までに
ご案内いたします。



【配信作品】 2023年12月10日0:00から23:59まで限定配信

上映 1

大阪アジア映画祭コンペティション部門「来たるべき才能賞」受賞作品

『世界は僕らに気づかない』飯塚花笑監督作品（2023年112分）

上映 2

第13回 KASHISH ムンバイ国際クィア映画祭「最優秀主演俳優賞（イシツカユウ）」「審査員特別賞」、
香港レズビアン&ゲイ映画祭2022「最優秀短編賞」、映文連アワード2022「準グランプリ」

『片袖の魚』東海林毅監督作品（2021年34分）

トーク 1

表現の先に見える LGBTQ

トーク 2

トーク 1&2

トーク 1&2

トーク 2

ともに生きる社会

これからの在り方



間々田久渚
（一般社団法人
ハレルワ代表）



イシツカユウ
（映画「片袖の魚」
主演）



村山朋果
（映画「世界は僕らに
気づかない」出演）



飯塚花笑監督
（映画「世界は僕らに気づかない」監督）

トーク 1&2

オンラインにて上映を行います。申込方法や上映作品の詳細については、特設 WEB サイトにてご確認
ください（右記 QR コードまたは以下の URL からアクセスいただけます）。

申し込みフォームから必要事項を入力・送信後、受信確認で返信メールをお届けします。

お申込みから3日以内に返答がない場合は たかさきコミュニティシネマまでご連絡ください。

URL: <https://hrmf-gunma.com/>

【お問い合わせ先】

企画に関するお問い合わせ：群馬県生活こども部生活こども課人権同和係 TEL.027-897-2687 / seikatsuka@pref.gunma.lg.jp

作品や申込に関するお問い合わせ：たかさきコミュニティシネマ（シネマテークたかさき） TEL.027-325-1744 / info@hrmf-gunma.com



Human Rights Movie Festival in Gunma 2023

みなさんは「人権」ということばからどんな印象を受けますか? 「人権」は、だれもが暮らしやすい社会を作るうえで、とても身近で大切なものです。

県では「人権教育・啓発の推進に関する群馬県基本計画」に則り、県民一人一人の人権を尊重するために、関係機関等と連携し施策を推進しております。今回の「ヒューマンライツ・ムービーフェスティバルinぐんま 2023」はこうした取組の一環として開催するものです。

県民のみなさんが広く、どこでも、だれでも、参加可能なオンライン型のイベントといたしました。この機会が、改めて「人権」について考え、理解を深めていただくきっかけとなれば幸いです。

『世界は僕らに気づかない』 飯塚花笑監督作品 2023年 112分

群馬県太田市に住む高校生の純悟(堀家一希)は、フィリピンパブに勤めるフィリピン人の母親レイナ(ガウ)と一緒に暮らしている。父親のことは母親から何も聞かされておらず、ただ毎月振り込まれる養育費だけが父親との繋がりとなっていた。

純悟には恋人の優助(篠原雅史)がいるが、優助からパートナーシップを結ぶことを望まれても、自分の生い立ちが引け目となり、なかなか決断に踏み込めず、一人苛立ちを抱えていた。

そんなある日、レイナが再婚したいと、恋人を家に連れて来る。見知らぬ男と一緒に暮らすことを嫌がった純悟は、実の父親を探すことにするのだが…。

脚本・監督:飯塚花笑

出演:堀家一希 / ガウ / 篠原雅史 / 村山朋果 / 森下信浩 ほか

飯塚花笑 (映画監督・脚本家)

1990年生まれ。群馬県出身。

大学在学中は映画監督の根岸吉太郎、脚本家の加藤正人に学ぶ。トランスジェンダーである自らの経験を元に制作した『僕らの未来』は、びあフィルムフェスティバルにて審査員特別賞を受賞。

国内のみならずバンクーバー国際映画祭等、国外でも高い評価を得た。大学卒業後は「ひとりキャンプで食って寝る」(TV 東京)に脚本で参加。2022年には、初の劇場公開作品「フタリノセカイ」が話題を呼んだ。

また大阪アジア映画祭コンペティション部門に最新作「世界は僕らに気づかない」が入選。アジア映画の未来を担う最も優秀な才能に贈られる来るべき才能賞を受賞した。

その後世界7カ国11の映画祭で上映され、2023年より劇場公開された。



『片袖の魚』 東海林毅監督作品 2021年 34分



トランスジェンダー女性の新谷ひかり(イシツカウ)は、ときに周囲の人々とのあいだに言いようのない壁を感じながらも、友人で同じくトランス女性の千秋(広畑りか)をはじめ上司である中山(原日出子)や同僚の辻(猪狩ともか)ら理解者に恵まれ、会社員として働きながら東京で一人暮らしをしている。

ある日、出張で故郷の街へと出向くことが決まる。ふとよぎる過去の記憶。ひかりは、高校時代に同級生だった久田敬(黒住尚生)に、いまの自分の姿を見てほしいと考え、勇気をふり絞って連絡をするのだが――

監督・脚本・プロデューサー:東海林毅

出演:イシツカウ / 広畑りか / 猪狩ともか / 黒住尚生 / 田村泰二郎 / 原日出子

助監督:小池匠 脚本:東海林毅 原案:文月悠光「片袖の魚」(『わたしたちの猫』ナナロク社刊)

東海林毅 (映画監督・映像演出)

武蔵野美術大学在学中より活動を開始し、1995年東京国際レズビアン&ゲイ映画祭にて審査員特別賞を受賞。バイセクシュアル当事者でもあり、商業作品を監督する傍ら主に自主作品を通してLGBTQ+と社会との関わりを探ってきた。

短編「老ナルキソス」(2017)が国内外の映画祭で10冠を獲得。「片袖の魚」(2021)では日本で初めてトランスジェンダー当事者俳優の一般公募オーディションを行い話題となる。

現在、完全新作の長編としてセルフリメイクした『老ナルキソス』(2022)が全国で好評公開中。